

尾瀬の自然を守り抜くために  
～尾瀬クラウドファンディングコンテスト開催を目指して～

15期生 1年2組1番 阿佐美 龍生

○研究の概要

国内に34カ所ある国立公園の1つである尾瀬国立公園には希少な自然が広がっている。その自然の中には67kmもの木道がある。しかし、近年、木道の老朽化が進んでいる。現在、尾瀬の木道の一部を管理している東京電力は、その修理に年間2億円を支出している。それでも、尾瀬は、木道の老朽化だけでなくシカによる食害など様々な問題を抱えている。これらのことから、尾瀬の自然を守り抜くために寄付によって資金を集める方法を提案することを今回の研究の目的とする。

尾瀬保護財団がHP上で公表している企業からの寄付金額は、約2000万円であった。しかし、先ほど説明したように東京電力が管理する木道の修理にかかる金額だけでも年間2億円かかっている。このことから、尾瀬の自然を守り抜くためには、さらに多くの資金を集める必要があると言える。その方法としてインターネット上で不特定多数の人が財団や非営利団体に支援をする、「クラウドファンディング」というシステムをより広く活用したい。現在既に実施されているクラウドファンディングの一つである「Yahoo!募金」では集まった寄付金額は、20万円であり、一人あたりに平均すると143円である。また、世界寄付指数(World Giving Index)によると、日本は139カ国中111位という結果であることから、寄付を募る対象を国内だけでなく海外にも広げることでより多くの資金を集める方法を考えたい。ただ、世界のサイトに伝えるためには英語翻訳されたページをつくる必要がある。それらの作業を多くの人に無償で行ってもらうために、英語翻訳をした寄付ページの作品を募集し、優秀作品を決めるコンテストを行うことを提案したい。現在、尾瀬文学賞俳句大会というものがあり、尾瀬についての俳句が多く寄せられ、優秀作品が選ばれる。このように、英語翻訳をした寄付ページをコンテスト化し、高校生や大学生などに向けて、募集することで、より素晴らしいアイデアが生まれるだろう。

このように、尾瀬の自然を守り抜くためには、日本だけでなく海外に向けてインターネット上で寄付を募るべきだと考える。また、尾瀬クラウドファンディングコンテストの実施により、多くの人が尾瀬の問題について深く考えることにもなる。以上のことにより尾瀬の自然が守り抜いていたいと思う。

1 研究の目的

尾瀬は、木道の老朽化や鹿の食害、クマの出没など様々な問題を抱えている。それらの問題を解決するためには様々な手段をとることができるが多くの資金がないことには難しいと考えた。そこで資金を集める方法を考え、尾瀬の自然を守り抜くことをこの研究の目的とした。

2 研究の方法

- ①現在、木道の修理にどれほどの資金がかけられているのかを調べる。
- ②尾瀬保護財団が実施している「Yahoo!募金」での寄付金額の合計を調べ、一人あたりの平均をだす。
- ③寄付を募る対象を考える。
- ④クラウドファンディングを介して資金を集める方法を考える。
- ⑤クラウドファンディングページ作成を無償で行うためのシステム、尾瀬クラウドファンディングコンテストのシステムを考える。

3 研究の成果と課題

尾瀬には国内でも有数の希少な自然が広がっている。尾瀬には泥炭と呼ばれる腐敗しきらなかった植物がある。この泥炭が積み重なることによって世界的にも希少な湿原が生まれた。この湿原によって特殊な植物や動物が生息し、国内に34カ所ある国立公園のうちの1つとなっている。また、ラムサール湿地条約などにも登録されている湿地帯である。

しかし、近年、シカの食害やツキノワグマの出没、木道の老朽化、植生復元、観光客のマナーの低下など様々な問題を抱えている。

木道は近年、材木の取り換えが間に合っていない状況にあり、老朽化が進んでいる。尾瀬学校でガイドの方に木道について質問したところ尾瀬の木道は約10年に一度の周期で材木を取り換えるというのが実際に木道の修理にどのくらいの費用を支出しているのかを調べた。尾瀬の木道は57kmに及ぶが、そのうちの20kmは東京電力が、残りは県やその他の自治体が管理している。そこで、東京電力が管理する木道20kmの修理にどのくらい支出しているのかを調べた。



木道の維持管理と浄化槽トイレの維持管理、廃棄物処理等で、東京電力は年間2億円の費用を投じている。

「11 夏号 -ムラタ計測器サービス」〈[www.murata-s.co.jp/quarterly/No.94.pdf](http://www.murata-s.co.jp/quarterly/No.94.pdf)〉より

ここから、東京電力が管理する一部の木道の修理だけでも年間約2億円かかっていることが分かる。このことから、尾瀬の様々な問題を解決して、自然を守り抜くには多くの資金を集める必要があるのではないかと考えた。そこで、尾瀬保護財団がホームページ上で公表している様々な企業からの寄付金額を調べると、下のような状況であった。

尾瀬保護財団への寄付金額		表 1
企業・団体名	通算寄付総額	2018年の寄付金額
糸井商事株式会社	3,000,000	1,000,000
株式会社 明治	2,400,000	350,000
株式会社 エコ計画	3,000,000	1,000,000
株式会社 セーブオン	8,308,103	×
水上高原ホテル200	1,752,116	300,000
株式会社福島銀行	67,447,843	10,100,000
共和工業株式会社	1,500,000	×
アセットマネジメントOne株式会社	34,293,096	2,050,000
第四証券株式会社	1,811,612	40,000
株式会社第四銀行	6,617,385	200,000
株式会社群馬銀行	32,184,360	1,100,000
株式会社東邦銀行	12,031,164	750,000
糸井商事株式会社	300,000	100,000
株式会社ニチネン	1,100,000	×
一般財団法人 群馬県警察厚生会	800,000	×
株式会社とりせん	1,558,391	100,000
あいおいニセ	396,790	×
群馬トヨペット株式会社	600,000	300,000
合計	179,100,860	17,390,000

表1を見ると昨年、尾瀬保護財団に企業から確かに寄付された金額は、1739万円と約2000万円の金額だった。これらのことから、シカの食害やツキノワグマの出没、裸地化の改善など様々な問題を解決するためにはまず、多くの資金を集める必要があると考えた。

そのために、私が提案するのは多くの資金を集めるために、提案するのは不特定多数の人が財団やNPO(非営利団体)に寄付をすることができる「クラウドファンディング」のシステムを広く活用することだ。そこで、日本のクラウドファンディングサービスについて調べると、日本で代表的なクラウドファンディングサービスに「Readyfor(レディーフォー)」と「CAMPFIRE(キャンプファイヤー)」などがあることが分かった。その2つのクラウドファンディングサービスについての説明を引用する。

〈Readyfor〉

Readyfor が多くの方に選ばれている理由のひとつが、豊富な実績をもとに構築してきたサポート体制です。また、成功プロジェクトの傾向を分析し、その知見を活用することで、達成率75%という最高水準を実現しています。これは業界平均が30%程度であるのに対して、突出した数字です。

累計支援総額 7,000,000,000円※2018年10月時点

(傍線は筆者)

クラウドファンディング - Readyfor <https://readyfor.jp>

〈CAMPFIRE〉

目標金額の達成・未達成に関わらず、支援総額の12%が手数料となります。(中略) CAMPFIREは融資・投資とは異なるため、資金に対して金利や株式ではなくモノ・サービス・体験といった、プロジェクトでしか手に入れることのできないリターンを得る(返す)ことができます。

現在までに19,000件以上のプロジェクトが1,040,000人以上の人々から総額102億円を集めています。

(傍線は筆者)

CAMPFIREとは? <https://camp-fire.jp/about>

このように日本には少ない手数料で高い達成率を誇る、優れたクラウドファンディングサービスがあり、これらを活用することによって多額の資金が集められるのではないかと考えている。また、中学生や高校生がクラウドファンディングサービスを行うことが可能なのかを調べるために、高校生が駅舎を修理したニュースを調べた。

### 高校生もクラウドファンディング

壁がはがれ、屋根に穴、床もひびだらけ。銚子市内を走る銚子電鉄仲ノ町駅の駅舎は昨年までそんな状態でした。大正時代に建てられた歴史ある建物ながら、列車運行のための整備にお金をかけるのに手いっぱい、修繕費が出せずにいました。

そこで立ち上がったのが県立銚子商業高校の3年生です。プロジェクト代表の尾池月奈さんら4人を中心に、昨年7月下旬から約2カ月間で約200万円を集め、駅舎を修繕しました。

資金調達の手段に選んだのが、専門サイト「レディーフォー」を通じたクラウドファンディングです。3千円から20万円まで支援額のコースを段階的に設け、額に応じて感謝の手紙やタオル、駅名板や車両のヘッドマークへの広告掲載権、1日車両貸し切り権などを「お返し」としました。

高校生もクラウドファンディング | 1面の記事から | 朝日中高生新聞

<https://www.asagaku.com/chugaku/topnews/8615.html>

調べていく中で尾瀬保護財団がすでに、クラウドファンディングを利用していることも分かった。尾瀬保護財団が利用しているクラウドファンディングサービスは「Yahoo!募金」

だ。この「Yahoo!ネット募金」での寄付ページは下のようなものだった。

尾瀬の貴重な自然を守りたい

環境 子ども

シェア ツイート B! メール

**概要**

当財団は、「尾瀬国立公園」の保護活動を目的として、群馬、福島、新潟3県と地元4市町村等の出捐により平成7年に設立された財団法人であり、貴重な尾瀬の自然を守るため、ごみ持ち帰り運動などの普及啓発や自然解説、公園施設の管理運営、さらにはハイカーの安全を守るためのクマの追い払い、また近年ではシカの食害対策など、様々な活動に取り組んでいます。

特にシカによる湿原の踏み荒らしや、貴重な草花への食害が深刻となっていて、尾瀬は危機的な状況にあります。

尾瀬の貴重な自然は、祖先から受け継ぎ、子孫へと引き継いでいくべき尊い遺産です。今まで様々な保護活動により守られてきた尾瀬は、自然保護の原点と言われてきました。今後も国民の宝として大切に保護していくための取り組みを進めて参ります。

尾瀬の貴重な自然を守っていくために、是非ご支援ください。

寄付総額 (概算) 204,096 円

寄付人数 1,458 人

寄付する

現在の継続寄付人数: 2人  
毎月の継続的な応援が大きな支えになります。

**T-POINT**  
Tポイントを使って1ポイントから寄付できます。




プロジェクトオーナー  
尾瀬保護財団

図 1

図 1 を見ればわかるように寄付金額は合計 20 万 4096 円で、寄付人数は 1458 人となっている。このことから、1 人当たりの寄付金額を計算すると約 140 円になる。この寄付金額は決して多いとは言えない金額である。

では、なぜ尾瀬にクラウドファンディングが多く集まらないのだろうか。そのことを考えていくとそもそも日本は寄付に対する意識が低いということが分かった。

その根拠として世界寄付指数 (World giving index) をあげる。世界寄付指数とはイギリスのチャリティー団体 Charities Aid Foundation (CAF) および、アメリカの世論調査企業ギャラップの調査によって行われている、人助け、寄付、ボランティアに関する指数をランキングとして表した結果である。下の表は世界各国の寄付への興味や関心を調査した世界寄付指数というランキングの結果だ。この世界寄付指数は下の 3 つの観点で順位がつけられている。

- ①  **Helped a stranger, or someone you didn't know who needed help?** → 困っている他人を助けたか
  - ②  **Donated money to a charity?** → チャリティー団体などに寄付をしたか
  - ③  **Volunteered your time to an organisation?** → ボランティアとしてどのくらいの時間を提供したか
- 上から順に図 2・3・4

日本はこの世界寄付指数において表 2 のような結果になっていた。(この結果は 2017 年の

ものである。)





Country								
	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)
El Salvador	94	27	72	49	132	9	46	24
Albania	95	27	96	44	62	28	118	10
Gabon	96	27	35	59	123	11	111	12
Republic of Moldova	97	27	106	40	77	24	77	17
Guinea	98	27	59	53	119	12	84	16
Chad	99	27	95	44	87	21	89	16
Estonia	100	27	121	36	84	22	57	22
Rwanda	101	26	89	44	96	19	91	15
Slovakia	102	26	125	33	55	30	88	16
Central African Republic	103	26	100	41	111	14	53	23
Portugal	104	26	77	46	112	14	80	17
Poland	105	26	115	37	68	27	104	13
Mexico	106	26	82	46	101	18	102	13
Ethiopia	107	25	107	40	90	20	85	16
Egypt	108	25	49	54	110	15	131	7
Togo	109	25	85	45	113	14	90	16
Montenegro	110	25	108	40	76	24	119	10
Japan	111	24	135	23	46	32	73	18
Mali	112	24	69	50	124	11	113	11
Benin	113	24	101	41	115	13	81	17
Greece	114	24	70	50	130	10	114	11
Venezuela (Bolivarian	115	23	83	45	121	12	115	11

表 2 から分かるように日本は、①の観点では 135 位。②の観点では 46 位。③の観点で 73 位という結果だった。また、これら 3 つの観点の総合では 111 位という結果だった。(なおこのランキングには 139 ヶ国で順位がついている。) また、上位 10 各国は下の写真のような国々だった。





Country								
	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)	Ranking	Score (%)
Myanmar	1	65	57	53	1	91	3	51
Indonesia	2	60	76	47	2	79	1	55
Kenya	3	60	4	76	20	52	2	51
New Zealand	4	57	21	65	6	65	6	41
United States of America	5	56	7	73	13	56	7	41
Australia	6	56	19	66	9	63	10	40
Canada	7	54	16	67	10	61	16	35
Ireland	8	53	26	61	11	60	11	39
United Arab Emirates	9	51	11	71	17	55	35	27
Netherlands	10	51	65	51	7	64	15	36

表 3 を見ると分かるように 1 位から 10 位を並べると、ミャンマー、インドネシア、ケニヤ、ニュージーランド、アメリカ、オーストラリア、カナダ、アイルランド、イギリス、オランダの 10 ヶ国だった。これらの国々に向けた寄付ページ作成について考えていく必要がある。

しかし、クラウドファンディングによって寄付を募る場合、見出しや文章、写真などに

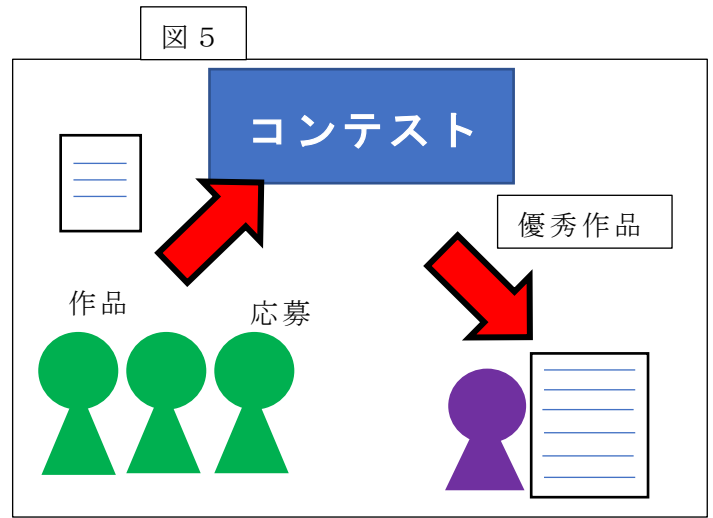
よって寄付額が大きく左右される。そのため、寄付を募るページのレベルをより高めるために、多くの人に案を出してもらう必要がある。そこで私はクラウドファンディングコンテストを開催することを提案したい。

〈クラウドファンディングコンテスト開催に向けて〉

表2・3から、できるだけ多くの寄付を得るためには、寄付指数が高い世界の国々に寄付を訴える必要があるが、当然、これらの国々の人々に向けて寄付を募るためには、外国語に翻訳された寄付ページをつくる必要がある。しかし、寄付ページをつくる中で予想される問題は言葉の壁である。寄付指数が非常に高く、ランキングで上位を占めているチャンマーやインドネシアなどの国々は多数の言語が使われている。そこでまず、世界中で最も広く使われている英語を用いたクラウドファンディングコンテストを開催したいと思う。

尾瀬クラウドファンディングコンテストは図5のような仕組みで開催したいと思う。しかし、このコンテストを行う際には次の3つの問題点がある。

- ① 英語を用いた作品を募集するため、その難しさから参加者が多く集まらない可能性が高いこと。
- ② 募集した作品を審査するためには、高い英語力を身に付けた審査員が必要であること。
- ③ コンテスト開催のための資金源がないこと。

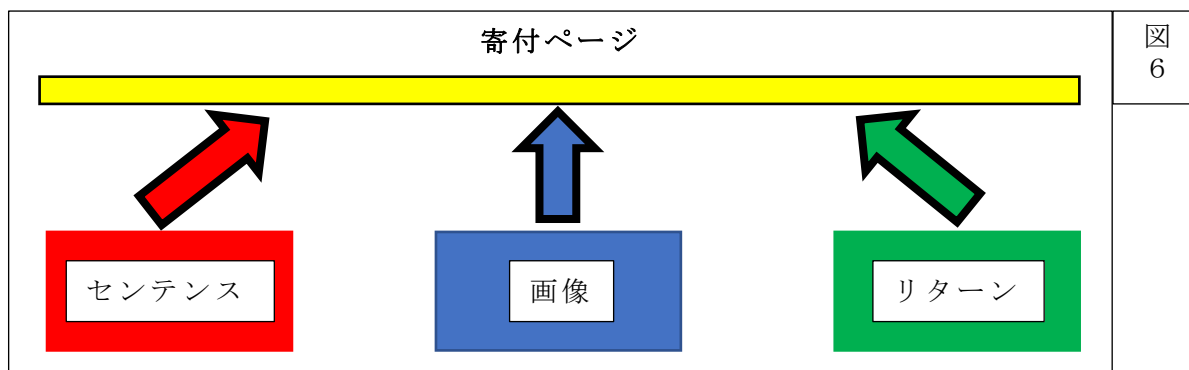


これらの問題を解決するために、コンテストを群馬県立中央中等教育学校（以下、中央中等）で開催しようと考えた。中央中等でこの尾瀬クラウドファンディングコンテストを開催することによって、次のような3つのメリットがある。

- ① 英語力が高い参加者が多く集まる可能性が高い。
- ② 審査員が不足する可能性が低い。
- ③ コストがあまりかからず、コンテストを開催しやすい。

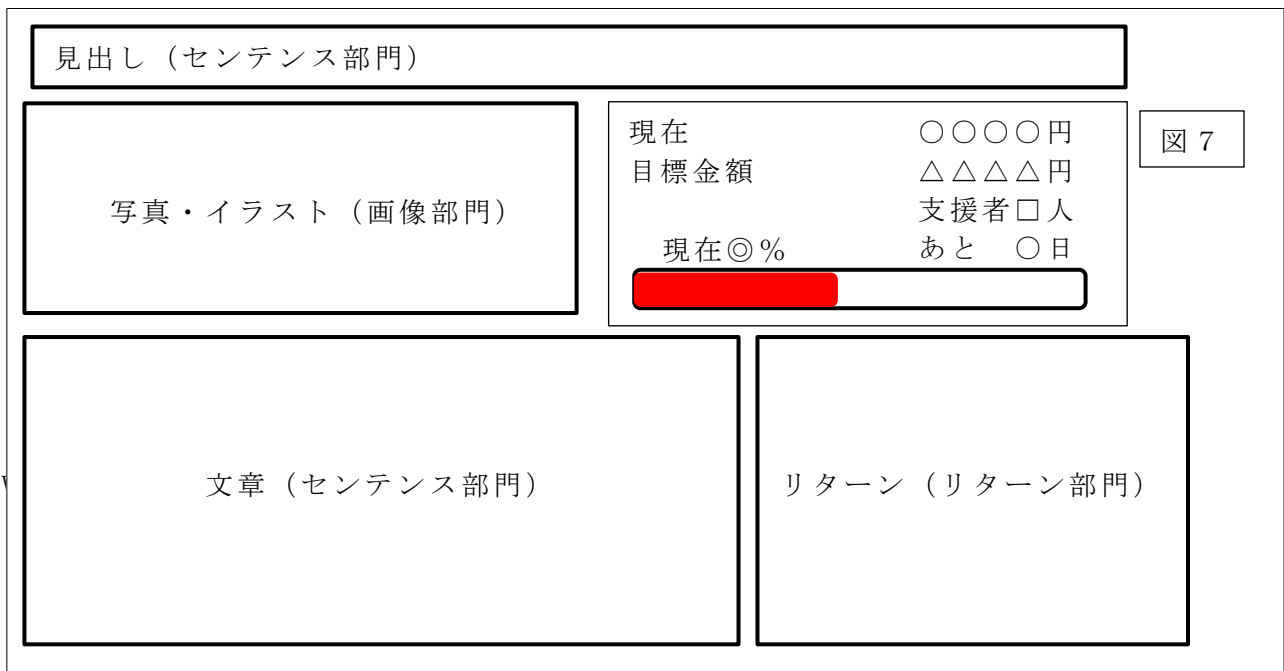
これらのことから、私は中央中等で尾瀬クラウドファンディングコンテストを開催することを提案する。

具体的には、3つの部門に分けて作品を募集したいと考えている。1つ目は見出しや文章を募集する「センテンス部門」、2つ目は写真やイラストなどを募集する「画像部門」、3つ目は寄付に対する見返りであるリターンのアイデアを募集する「リターン部門」。これら、3つの部門である。各部門から優秀作品を集めることによって、それらを1つの寄付ページとしてまとめたとき、より素晴らしいアイデアが生まれるだろうと考えている。これらの仕組みを図6に図式化した。





また、3つの部門を1つの寄付ページとしてまとめると、図7のように寄付ページがつくられる。



グローバル教育に力を入れている中央中等で、尾瀬クラウドファンディングコンテストを行うことによって素晴らしい寄付ページのアイデアが生まれるだろうと考えた。コンテスト開催によって国内だけでなく海外からも寄付を集め、尾瀬の自然を守り抜いていきたいと考えている。

#### 〈課題〉

尾瀬クラウドファンディングコンテストを中央中等で実際に行う際にはさらに多くのことを考えなければならないことを痛感した。具体的には優秀作品の考案者にたいする対応や作品を募集する際の規定などだ。これらの課題を考え、よりよいコンテストを開催したいと考えている。

#### 4、研究の感想

1年生での総合の学年テーマは「尾瀬」だったが、尾瀬は様々な問題を抱えていてそれらを解決するには多くの努力と資金が必要であることが分かった。鹿による食害やツキノワグマの出没、裸地化の改善、観光客数の減少、泥炭の破壊、木道の老朽化などの問題があった。私は、尾瀬クラウドファンディングコンテストによって、より多くの資金を集め、尾瀬の自然を守り抜いていきたいと考えた。しかし、集まった資金をどのように使うのか、なんのために利用するのかは決まっていない。これから、これらのことを明確にしていきたいと考えている。年々自然が少なくなっている尾瀬を未来に残したいという思いで研究ができた。今回の研究をこれからの研究活動に生かしたい。

#### 5、参考文献

##### 〈引用文献〉

表1：尾瀬保護財団 <https://www.oze-fnd.or.jp>

図1：尾瀬の貴重な自然を守りたい - Yahoo!ネット募金  
<https://donation.yahoo.co.jp/detail>

図2・3・4 表2・3：CAF World Giving Index 2017 | CAF  
<https://www.cafonline.org/Publications/2017/publications>

クラウドファンディング - CAMPFIRE (キャンプファイヤー)

<https://campfire.ac/>

クラウドファンディング - Readyfor (レディーフォー)

<https://readyfor.jp>

高校生もクラウドファンディング | 1面の記事から | 朝日中高生新聞 |

<https://www.asagaku.com>

〈参考文献〉

世界で最もチャリティーに熱心な国ランキング <https://www.huffingtonpost.jp>

シカによる被害の現状と狩猟の役割- 環境省 <https://www.env.go.jp/nature/choju>

コングラント PDF <https://congrant.com/jp>

Oze National Park - 環境省 [www.env.go.jp/en/nature](http://www.env.go.jp/en/nature)

NPO 必見！ネット上で簡単に多くの寄付を集める方法とは？

<https://congrant.com/jp/scene/20171215.html>

チャリティーに熱心な国ランキング 日本 102 位

<https://www.cafonline.org/docs/default-source>

11 夏号 - ムラタ計測器サービス株式会社

[www.murata-s.co.jp/quarterly/No.94.pdf](http://www.murata-s.co.jp/quarterly/No.94.pdf)

クラウドファンディングとは | A-port 朝日新聞

<https://a-port.asahi.com/guide/>

世界寄付指数ランキング 2017

<https://www.cafonline.org/docs/default-source>